

クック諸島



ミクロネシア連邦



フィジー共和国



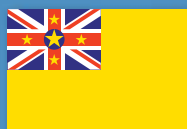
キリバス共和国



マーシャル諸島共和国



ナウル共和国



ニウエ



パラオ共和国



パプアニューギニア独立国



サモア独立国



ソロモン諸島



トンガ王国



ツバル



バヌアツ共和国

# 日本と太平洋の島国





# 遙かな昔、遠い海の物語—

## 太平洋の島国の特色と固有文化

太平洋の島嶼国は、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの三つの地域に区分されます。各地域には、それぞれの歴史を反映した独自で豊かな文化があります。



### ミクロネシア

Micronesia

(小さな島々の意)

パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャルは1920年から45年まで、日本の委任統治領だった歴史的背景もあり、日本の言葉や文化が現地の文化の中に残っています。また、多くの日系人たちが、政治経済分野のリーダーとして活躍しているのもこの地域の大きな特徴です。

ヤップ島の巨大な石貨 ▶

ミクロネシア連邦のヤップ島に約800年ほど前から伝わる、石灰岩でできた世界最大のお金。直径30cmから3mまでのものがあり、現在でもいわば骨董貨幣として、不動産の売買やご祝儀などに通貨(米ドル)とあわせて使われています。



### メラネシア

Melanesia

(黒い島々の意)

火山島が多く、熱帯雨林が広がっていることから、鉱物資源や森林資源に恵まれています。また1000近くの言語集団からなる多種多様な文化が存在する一方で、共同体意識があり、同じ部族出身者同士の団結意識が強いことで有名です。

不戦の誓いを意味するカヴァの儀式 ▼

従来は、部族間で戦闘を交えた相手と和解のために行っていました。胡椒科のヤングナという木の根をすり潰し、水で溶かしたものをココナッツの器に入れて飲みます。

現在では、歓迎の儀式としてもバナアツ、フィジーをはじめ広く太平洋島嶼地域で行われています。



### ポリネシア

Polynesia

(多くの島々の意)

古くから航海術に優れた海洋民として知られており、かつては100人の戦士を乗せることができる大型のカヌーで航海をしたという記録も残っています。また、国王や貴族の間で培われてきた豊かな音楽や芸能が現在も各地で継承されており、日本人にも馴染みのあるフラダンスはこの代表です。

風通しを良くするため壁がない家「ファレ」 ▼

サモアの伝統的な住居で、柱と屋根だけで造られ、間仕切りも壁もありません。暑い日差しを避けて涼しい風を入れる、南の島の気候風土ならではの冷房要らずの住居です。



## 先史以来の悠久の歴史文化圏

### 世界史の中の太平洋の島国

太平洋の島国が世界史に登場するのは大航海時代の16世紀以降ですが、少なくとも3万5千年前から太平洋の島国には人々が定住しはじめていました。彼らは、はるか先史時代に太平洋を航海し、それまで人類未踏の地であった島々へと移動し、その航海技術の特長として生活を築いてきました。



パプアニューギニアの伝統舞踊シンシン



無形文化遺産「バナアツの砂絵」



トンガのカヌー「カリヤ」

16 世紀		ポルトガル・スペインとの接触
17~19世紀		欧米諸国による植民地化
20世紀	1920年以降	第一次世界大戦で占領したドイツ領ミクロネシア地域を国際連盟の下で日本が委任統治(当時の呼称は「南洋群島」)
	第二次世界大戦中	西太平洋地域が広く激戦地となる(ニューギニア、ガダルカナル、ペリリュー等)
	第二次世界大戦後	太平洋の島国の統治体制は、オーストラリア・ニュージーランドと欧米諸国の国連信託統治領またはその海外領土で構成されることとなる
	太平洋の島国の独立の時代	
	1962年	サモア独立国独立
	1968年	ナウル共和国独立
	1970年	トンガ王国、フィジー共和国独立
	1971年	南太平洋フォーラム(SPF)* 発足 *太平洋諸島フォーラム(PIF)の前身
	1975年	パプアニューギニア独立国独立
	1978年	ソロモン諸島、ツバル独立
	1979年	キリバス共和国独立
	1980年	バナアツ共和国独立
	1986年	ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国独立
	1994年	パラオ共和国独立



# 太平洋

日本

## ミクロネシア

パラオ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、ナウル共和国、キリバス共和国（一部）の各国が含まれます。パンノキ、タロイモ、ヤムイモ、ココヤシの耕作と、礁湖（ラグーン）や沖合での漁労で生計を立てています。

サイパン島

グアム島

マーシャル諸島共和国

パラオ共和国

ミクロネシア連邦

マルキョク

バリキール

マジロ

タラワ

パプアニューギニア独立国

ナウル共和国

ソロモン諸島

ツバル

フナフティ

ポートモレスビー

ホニアラ

バヌアツ共和国

ポートビラ

スバ  
フィジー共和国

ニューカレドニア

## メラネシア

パプアニューギニア独立国、ソロモン諸島、フィジー共和国、バヌアツ共和国の各国が含まれ、人々はイモの栽培や漁業などによる生活を送っています。

オーストラリア連邦

## 太平洋諸島フォーラム(PIF)

太平洋・島サミットに参加する島国・地域は太平洋諸島フォーラム(PIF)に加盟しています。PIFとは、1971年に、独立後間もない太平洋の島国・地域とオーストラリア、ニュージーランドが参加して発足した地域協力の枠組みです。フィジーの首都スバに事務局が置かれています。

ニュージーランド

日付変更線

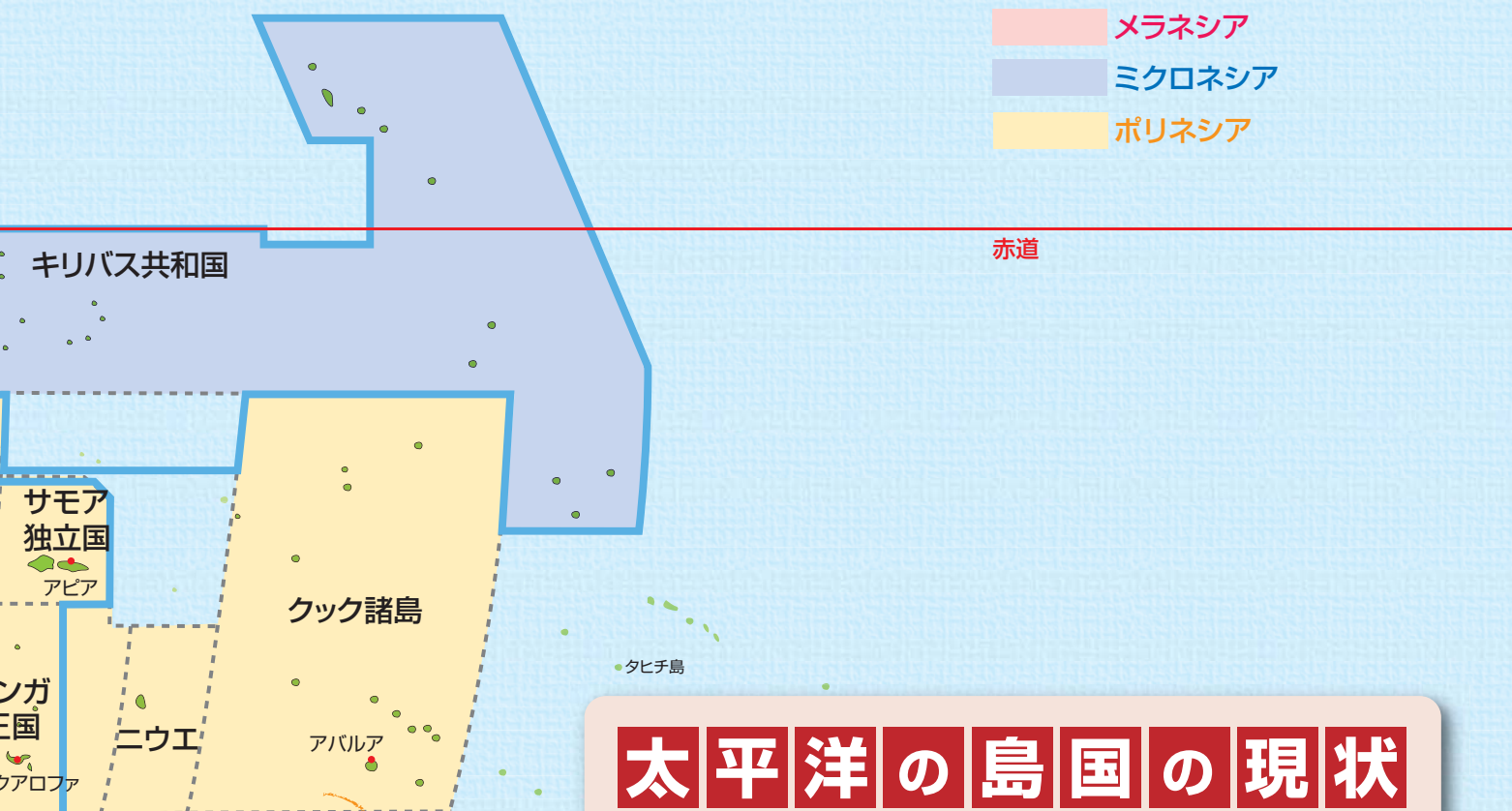


# の島国

国名	面積(km <sup>2</sup> )	排他的経済水域 (EEZ)(千km <sup>2</sup> )	人口(千人) (10年)	GNI/人 米ドル(10年)
<b>メラネシア</b>				
パプアニューギニア独立国	462,000	3,100	6,888	1,300
ソロモン諸島	28,900	1,300	536	1,030
フィジー共和国	18,270	1,260	854	3,610
バヌアツ共和国	12,190	680	239	2,760
<b>ミクロネシア</b>				
キリバス共和国	730	3,600	100	2,010
ミクロネシア連邦	700	2,900	111	2,700
パラオ共和国	488	601	20	6,470
マーシャル諸島共和国	180	2,100	54	3,450
ナウル共和国	21	320	10	3,433
<b>ポリネシア</b>				
サモア独立国	2,830	99	183	2,860
トンガ王国	720	700	104	3,390
クック諸島	237	1,800	23	9,749(09年)
ツバル	26	757	12	2,749(09年)
ニウエ※	259	294	2(09年)	12,158(NZドル、06年)
オーストラリア連邦	7,692,024	8,148	22,760	43,590(09年)
ニュージーランド	270,534	4,053	4,419	29,050(09年)

※ニウエは、国ではなく地域

出典:『2010年世界銀行』、UN Data(09年)、FAO等



## 太平洋の島国の現状

### 3つの脆弱性

太平洋の島国・地域が  
直面している困難・課題

#### ①国土が狭く、分散

人口が少ないため国内市場が小さく、国土が広い海洋に散在

#### ②国際市場から遠い

主要国際市場から地理的に遠く、輸送コストが高い

#### ③自然災害や気候変動等の環境変化に脆弱

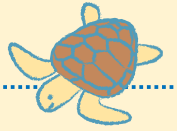
海面上昇の影響を受けやすく、地震やサイクロンなどの自然災害が多発

#### ポリネシア

ニュージーランド、ハワイ諸島及びイースター島を結んだ広大な三角形の海域で、その最も西の区域にツバル、サモア独立国、トンガ王国、ニウエ、クック諸島が含まれます。タロイモやココヤシなどに加え、サツマイモを主食とした生活を送っています。

# 太平洋の島国と日本

## 日本にとっての太平洋の島国の重要性



### ①歴史的に親日的な国家群

多数の日系人が存在し(特にミクロネシア三国=パラオ共和国、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国)、大統領をはじめ政財界のリーダーを輩出しています。

### ②国際社会における日本のパートナー

国連をはじめ国際社会での様々な取組や諸活動において、日本の立場を支持しています。

### ③資源(水産、鉱物、エネルギー等)の重要な供給地、海上輸送路

中西部太平洋水域は、日本のマグロ・カツオ漁獲量の約8割を占める漁場です。さらに資源の重要な輸送路となっています。



パラオ：3月25日を震災犠牲者のための追悼の日とすることを発表したトリビオン大統領



マーシャル諸島：募金活動(日の丸をかたどったアクセサリの販売)

### Column

### ～A friend in need is a friend indeed～ 困った時の友こそ真の友

2011年3月11日の東日本大震災に際しては、太平洋島嶼国からも日本に対し、温かいお見舞いの言葉や義援金など、たくさんの支援を頂きました。

また、日頃の日本からの支援への恩返しとして、各国で学生や一般市民による募金やチャリティイベントなど心温まる活動が行われ、大変勇気づけられました。

(注)太平洋島嶼国政府からの義援金

バプアニューギニア1000万キナ(約3億2000万円)、トンガ20万パアンガ(約900万円)、サモア及びミクロネシア連邦各10万米ドル(約800万円)、キリバス5万豪ドル(約430万円)、ツバル1万8000豪ドル(約150万円)

## 第5回 太平洋・島サミット(2009年) 日本の支援策



「We are islanders-エコで豊かな太平洋」の目標達成のための3つのテーマを中心に、3年間で総額500億円規模の支援を実施。

### ①エコ

#### 太平洋環境共同体構想

- 太陽光発電、海水淡水化装置等、日本の優れた環境技術を提供。
- 太平洋島嶼国の貴重な環境を守るため、1500人規模の人材育成を実施し、環境・気候変動・防災分野の日本の知見を共有。



フィジー：コミュニティ防災能力強化プロジェクト

### ②豊かな

#### 人間の安全保障(脆弱性の克服)

- 太平洋島嶼国の経済基盤の脆弱性の克服を支援するため、2000人規模の人材育成を実施。
- 学校、病院等の建設等を通じた基礎的な生活条件の改善及び持続的な農業・漁業の支援を実施。



バプアニューギニア：JICAボランティアによる稲作指導

### ③We are islanders

#### 人的交流(キズナ・プラン)

- 日本と太平洋島嶼国間の人的交流を包括的・戦略的に拡充し、3年間で1000人を超える青少年交流を実施。
- 日本・ASEAN・太平洋島嶼国をつなぐ新たな交流事業を実施。



ミクロネシア三国：日本の小学校での書道体験



# 第6回 太平洋・島サミット

PALM6: The Sixth Pacific Islands Leaders Meeting

## We are islanders ~広げよう、太平洋のキズナ~

太平洋の島国はとても親日的であり、国際社会において日本を支持してくれる重要なパートナーです。このような島国との関係を強化し、太平洋の島国の発展に共に取り組むために、1997年に日本は太平洋島嶼国の全首脳を招待して第1回太平洋・島サミットを開催しました。以降3年に一度、太平洋地域の安定と繁栄を目指し、首脳レベルで議論を行っています。

2012年5月25日及び26日には、沖縄県で第6回太平洋・島サミットが開催されます。



## 太平洋・島サミット (PALM) の歩み

1987年1月	倉成ドクトリン (5原則) 発表 (独立性・自主性の尊重、地域協力への支援、政治的安定の確保、経済的協力の拡大、人的交流の促進)
1989年	第1回南太平洋フォーラム (SPF/現PIFの前身) 域外国対話に参加 以後、毎年閣僚級 (副大臣等) が参加し、政策対話を促進
1997年10月	「第1回太平洋・島サミット (PALM1)」開催 (東京)
2000年4月	「第2回太平洋・島サミット (PALM2)」開催 (宮崎) 「太平洋フロンティア外交」の提唱と「宮崎イニシアティブ」の発表
2003年5月	「第3回太平洋・島サミット (PALM3)」開催 (沖縄) 地域開発戦略「沖縄イニシアティブ」重点5分野における日・PIF共同行動計画を策定
2006年5月	「第4回太平洋・島サミット (PALM4)」開催 (沖縄) 「より強く繁栄した太平洋地域のための沖縄パートナーシップ」構築とPIFの自助努力を謳った「パシフィック・プラン」に対する日本の支援策を発表
2009年5月	「第5回太平洋・島サミット (PALM5)」開催 (北海道) ①環境・気候変動問題、②人間の安全保障の視点を踏まえた脆弱性の克服、③人的交流の強化について議論し、「北海道アイランダーズ宣言」を採択
2010年10月	「太平洋・島サミット中間閣僚会合」初開催 (東京) 第5回太平洋・島サミットのフォローアップと第6回サミットに向けた議論を実施



## 第6回 太平洋・島サミット (PALM6) 開催

2012年5月25日(金)・26日(土) 沖縄県



第6回太平洋・島サミット親善大使

スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム「フラガール」

写真協力：国際機関太平洋諸島センター、国立青少年教育振興機構、JICA (今村健志朗・現地事務所)、  
バヌアツ政府観光局、パシフィック・インターナショナル (松田芳郎)、常磐興産株式会社